

GIGAスクール構想を急がせるな 「1日に1〜2コマ、授業展開に応じて」でスタートさせよう

「GIGAスクール構想」により、教室に「一人一台」のタブレット端末が置かれることになり

ました。この4月、多くの学校では、児童・生徒一人ひとりのアカウントの設定・配布や機器操作

の説明に追われたことと
思います。時には「授業時間」をつぶして。
そして、環境の不備な

どが原因で「起動しない」「充電できない。」「回線に接続できない。」という悲鳴が、多くの学校

から聞こえてきます。特に児童・生徒数が多い学校から。
それでも、何とかスター

「GIGAスクール構想」

2021・4・15

「1人1台端末」ありきではなく 子どもたちに豊かな学びを



4月から「GIGAスクール構想」により、小中学校で「1人1台端末」が配られ、「教育のICT化」が荒波のように子どもたちや教職員を押し流そうとしています。「GIGAスクール構想」とは一体何か、改めて考えたいと思います。

「未来投資戦略2018」

は、日本が国際競争で勝ち抜くために「教育改革」が必須であると主張しました。これを受けた文科省は「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画（2018〜2022年度）」を地方財政措置で行うとしました。しかし、何が何でも「AI人材」早期育成を求める企業・財界はそのペー

スに納得せず、「教育業界」に「陣地」を拡大しようと画策する経産省とともに「教育のICT化」を強力に求めました。その結果、2019年度補正に「GIGAスクール構想」が盛り

込まれ、2020年度第1次補正と合わせて総額4610億円もの多額の予算が措置されました。

こうした経緯から「GIGAスクール構想」が教育の側から要望されたものではなく、企業・財界の強い要求による「経済政策」であることがわかります。文科省が当初考えていた「1日に1〜2コマ、授業展開に応じて必要な時に」「1人1台環境」で、デジタル教科書やAI技術を活用した

ドリル等程度」では済まない状況が強い意向でつくり出されました。

コロナ禍での一律休校で「オンライン教育」を行うべきとの声が一部から上がりましたが、発信する学校・教職員の大きな負担や、家庭の脆弱な通信環境などが明らかになり、とても授業の代わりには使えないことがはっきりしました。

ICTは便利さを追い求めてつくられ発展してきたものですが、ICTやAIは決して人にとって代わることはできません。学校で子どもたちが学び成長するためには、ICTによるバーチャル体験で興味・関心をもたせることより、瑞々しい感性をもった子どもたちには数多くの実体験を重ねることが何より大切です。人が五感を使って自然と触れ合った体験こそ、その後の豊かな人間生活をつくる基盤となるものだからです。

全教教育文化局長 波岡知朗

トさせようと教職員は必死なのですが、次に心配されるのは6月の市・町議会です。

市や町は多額の予算を投入して、「一人一台」端末を準備したわけですから、議員さんは「端末が有効に活用されているか。」と質問するのは当然です。市・町教委はどのように回答するのでしょうか。学校や教職員の意見も聴かず、勝手な構想を押しつけないでください。教室に空調が設置された後、夏休みが短縮されたように。



「1日に1〜2コマ、授業展開に応じて必要な時に、デジタル教科書やAI技術を活用したドリル程度」というのが、文科省の当初の方針でした。（資料参照）
どうか、もう少し長い目で見て、ゆっくり進めてください。

泉北教組に加入して子どもと教育を守ろう！